

ICTを活用した認知症の人への支援 -適切な評価とthird placeとしてのオンラインコミュニティの構築-



吉村 貴子

ヨシムラ タカコ

健康医療学部
言語聴覚学科
教授

主な研究業績

- 1、認知症の神経心理学的検査の有効性の検証
- 2、認知症の人のコミュニケーション支援
- 3、記憶障害や失語症の人のコミュニケーション支援
- 4、認知機能と局所脳血流の関連の検証
- 5、ワーキングメモリの評価と支援

研究キーワード

認知神経心理学
認知症

拡大・代替コミュニケーション
失語症

老人性難聴

研究の概要

脳の状態を評価する神経心理学的検査の有用性を検証する & 実証する

脳損傷による言語やコミュニケーション障害に対する評価方法の適切性や訓練方法の有効性を検証する研究をしています。



認知症のコミュニケーション支援を行い、共生社会を実現する

認知症が進行して重症化しても、自らの意思で人生を進めることができるようなコミュニケーション支援について研究しています。



重症認知症の人にとどのような終末期対応を提供するのか——「認知症診療医」認定更新のために——

重度認知症患者のコミュニケーション能力への対応 ——言語機能の低下と意思疎通の工夫——

吉村 貴子

認知症では進行に伴って、記憶、言語、遂行機能などさまざまな認知機能障害が併せて出現し、重症化する。コミュニケーションは、人と人が情報を共有する過程ととらえることができるが、その過程では言語情報、非言語情報、さらには状況や文脈などを含めて、情報の発信者は意図を表出し、受信者は推測する。複数の情報や状況などを処理し統合するため、コミュニケーションでは言語機能以外にも複数の認知機能が必要となる。このようにコミュニケーションをとらえると、認知症では言語障害が前駆にない場合でも、コミュニケーション能力が低下すると解釈できる。重度認知症では認知機能の障害が複合

産官学連携へのニーズ

適切なタイミングで評価や支援を受けることができる「認知症の人にやさしい」地域に向けたICTによる環境整備

認知症に対する偏見があると、診断や治療を適切なタイミングで受けられない人がいる。

→ 認知症の疾患修飾治療法が承認されても、本当に必要とする人たちに届かない・・・

評価者がいない医療・福祉・介護機関と連携して
オンラインで適切なタイミングで評価、支援できるように



オンラインで評価者を指導・認定→認定された評価者を医療等の現場に派遣or在宅患者をオンライン評価